

村口和孝

日本テクノロジーベンチャーパートナーズ代表

06

ハイテクベンチャーに賭けるキャピタリスト

個人の資金を集めて投資・運用 有望な技術の評価は人間観察で

ベンチャーキャピタル(VC)を名乗りながら、銀行融資と変わらないことをしているのが日本のVCといわれる。そうした組織中心のVCに見切りをつけた、独立個人型のベンチャーキャピタリストが日本でも活躍し始めた。米国やイスラエルなどのVC先進国で刺激を受け、大手VCを飛び出した。

村口和孝(四〇)は、野村証券系のベンチャーキャピタル(VC)、ジャフコでキャピタリストとしての腕を磨いて独立した。九八年七月、ハイテクベンチャーに的を絞ったVC、日本テクノロジーベンチャーパー

トナーズ(NTVP)を設立した。「ジャフコでは三〇〇〇人の経営者と会い、事業計画を相談し、二〇〇社、六〇億円の投資をして二〇〇億円以上のキャピタルゲインを得た」という。そういう

実績を上げながらも、組織型のVCではキャピタリストの仕事に限界がある、と感じて独立の道を選んだ。

村口は慶応大学在学中に、将来性とロマンを感じてキャピタリストという職業に就くことを決めた。そして、ジャフコ入社前に、米シリコンバレーを訪れてベンチャーキャピタリストを訪ねて回った。早く一流のキャピタリストになりたい、という情熱に突き動かされたことである。

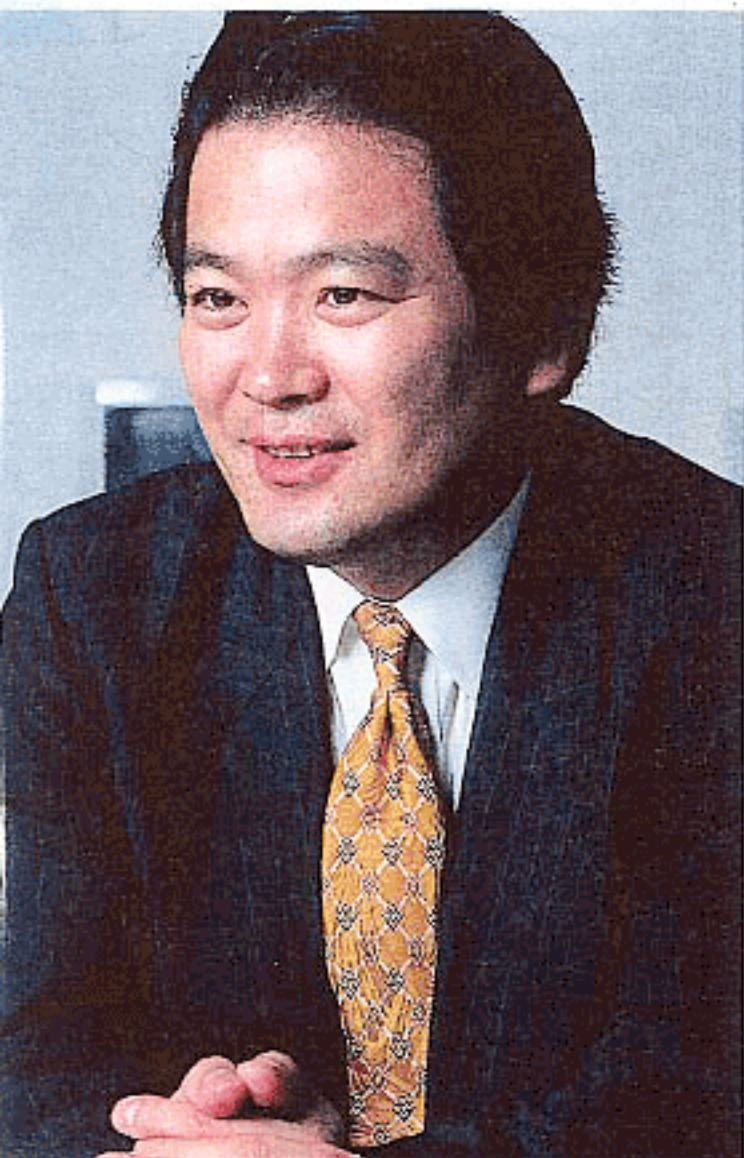
入社してからは、様々な業種のベンチャー企業投資を手掛ける一方で、休暇をとっては自費で米国、アジア、欧州など一〇回以上海外旅行をした。この旅行は、一流のキャピタリストになるための勉強のためだった。

転機となったのは、入社一四年を過ぎたころのイスラエルへの旅行だった。ハイテ

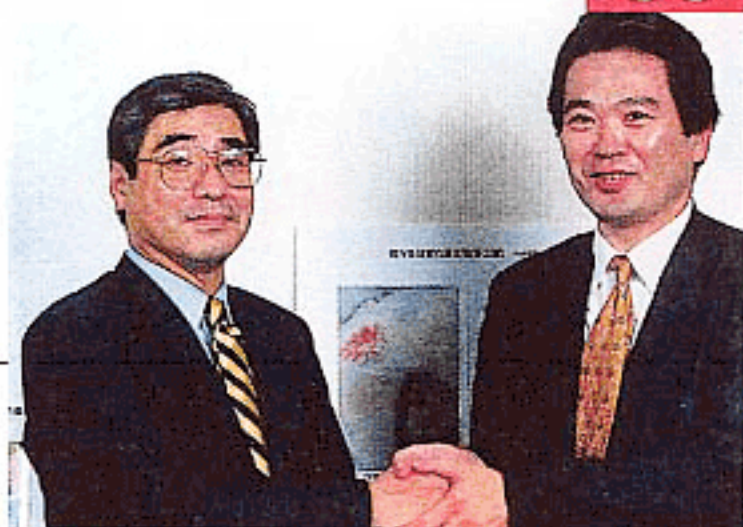
クベンチャーの多いイスラエルで、キャピタリスト個人のベンチャーに賭ける思いの深さに感動した。同時に、組織の限界を思い知らされた村口は、独立を決意して帰国直後の九八年四月に、ジャフコを退社することになる。

投資事業組合設立の一番乗り

そして、NTVP設立後、ベンチャー投資の拡大を狙った投資事業有限責任組合法が一月施行されたことにいち早く対応し、日本で初の投資事業有限責任組合「NTVP1号」を設立、個人の資金を三億円以上集めた。出資には堀場製作所の堀場雅夫会長などが個人として参加しており、これまでにソフト開発のインフォテリアなどハイテクベンチャーに



村口 和孝
日本テクノロジーベンチャーパートナーズ代表



出資している。

この一〇月末には、インターネットオークション事業に乗り出すディー・エヌ・エーに数億円規模の投資を行い、早期公開を目指す」と発表した。村口が、経営陣の経営能力とネットオークション事業への将来性を高く評価したからだ。

村口がこうしたハイテクベンチャーにこだわり、これを専門にするVCを設立したのは、「日本では、VCの投資対象が流通や一般サービスがほとんどで、イスラエルや米国のようにハイテク中心のVCが絶対に必要」という信念があるからだ。

「大学は理工系を目指して受験勉強をしていたが、果たせずに経済学部に入った。それで、技術とは全く縁はなかった。学生時代はシニエクスピア劇の演出などにのめりこんで講義などはそっこのけだった」。そんな村口は、ハイテクを売り物にするベンチャーの有望性をどう判断するのか。

「本当の最先端の技術は米国でさえ評価できる人はいない。なぜなら新しいからだ。日本でよく言われるように、目利きがないから投資がないというのはおかしい。世界中どこにも先端技術の目利きなどいない。あそこら徹底的に聞き回って、聞いた人の顔色、表情の動きを見て投資するかどうか確かめるほかない。極めてシニエクスピア的な人間観察から技術を評価している。米国のキャピタリストも同じ」

東北大学未来科学技術センターの大見忠弘教授の画像圧縮技術の実用化を目指す。情報量の多い画像を送信・蓄積しやすくする画像圧縮技術が高度化されないと、今後の情報機器、コミュニケーション手段の進展にブレーキがかかってしまうほど重要なものだ。

村口は「ジャフコ在籍中から大学の技術をシードにプロジェクトを立ち上げたい」と考えていたこともあり、大見教授を訪ねたことがある。この時、教授の研究成果のコンサルタントをしていた村川順之と知り合った。当時I&Dは村川が社長を務めていたが、この技術を実用化する会社としてI&Dを再出発させる考えがあった。村口と村川は、社長候補に大企業出身のエンジニアを探していた。そして、エンジニアでマーケティングに強い宮崎龍二をスカウトした。「技術ベンチャーでも、マーケティングができないと成功しない」と、村口は断言する。

宮崎はシャープに在籍、新しいことをやりたいとオムロンに移り、辞める直前は周辺機器事業部で商品企画に取り組んでいた。オムロンを退社し、I&D社長に就いたのが九四年四月。宮崎は言う。「日本では技術者のキャリアは社内でしか通用しない。キャリアを生かし独立してやろう」という気持があり、目をつけていた画像圧縮技術があった。それに両氏から資金も含めたチャンスを与えられた」。宮崎はエンジニアの夢に賭ける。そして、村口も、宮崎という人物と経験に賭けている。

村川は、キャピタリスト村口と話しているうちに、個人がリスクマネーを張ることができ人材の流動化が伴えば、エンジニアでも会社を簡単につくれる、と思うようになった。

ベンチャーキャピタリストの村口は、起業を促し支援する活動を幅広く展開していく考えた。大企業を辞めて、失業保険をもらいながら起業を考えている人が共同で使うスペース「NTPVキャンパス」を一〇月初旬、東京・芝に開設した。失業保険が出る六カ月の間、低料金で事務所を貸す。「インキュベーター（ふ化器）」

I&D会長の村川はエンジニア向け専門誌を発行し、エンジニアに対する理解も深く、人脈も豊富だ。村川は言う。「大企業は、人材の倉庫」ととまっている。また、大学は、技術の倉庫」になっている。この二つの倉庫の扉を開けてやれば活性化する」。こうした思いを持っていた村川は、キャピタリスト村口と話しているうちに、個人がリスクマネーを張ることができ人材の流動化が伴えば、エンジニアでも会社を簡単につくれる、と思うようになった。

起業支援活動を幅広く展開

インキュベーターという役割です」と村口は言う。さらに、「子供向けの起業体験講座」を開き、小学校高学年から高校生に起業、会社運営、決算報告などの体験をしてもらうというプロジェクトもある。村口は、こうした起業家支援活動を結実させ、起業家が輩出する時代を作り出さうとしている。

（文中敬称略）



村川 順之
アイ・アンド・エフ 会長



宮崎 龍二
アイ・アンド・エフ 社長

プロフィール 村口 和孝 (むらぐち かずたか)

1858年徳島県生まれ。84年慶応義塾大学経済学部を卒業。野村證券系のVG、ジャフコ入社。東京営業本部、北海道ジャフコ、東京投資本部などで勤務。98年4月、ジャフコ退社。同7月株式会社 日本テクノロジーベンチャーパートナーズ(MTVP)を設立、代表取締役役に就任。

事業内容

ベンチャーキャピタルに関するサービス全般。投資事業組合「NTPV-I」1号投資事業有限責任組合(出資金3億3000万円)の運営・管理。

起業者